

[2022年8月9日]

## 環境配慮型コンクリートの適用により 181t-CO<sub>2</sub> の J-クレジットを取得 ～ブロックチェーン技術を用いたプラットフォームの活用でクレジットの取得手続きがスムーズに～

鹿島(社長:天野裕正)は、2022年3月にコンクリートの製造・運搬に関わるCO<sub>2</sub>排出量を、ブロックチェーン技術により見える化するプラットフォーム(以下、本プラットフォーム)を開発しました。今般、本プラットフォームを初めて活用し、国が運営する「J-クレジット制度<sup>※</sup>」において 181t-CO<sub>2</sub> のクレジット(J-クレジット)を取得しました。



環境配慮型コンクリートを適用した社有施設

環境配慮型 コンクリート	使用量	取得 クレジット
ECM コンクリート	235m <sup>3</sup>	35t-CO <sub>2</sub>
エコクリート BLS	1,942m <sup>3</sup>	146t-CO <sub>2</sub>

\* 配合他の諸条件により使用量に応じたクレジット取得量は変化します

**J-クレジット 181t-CO<sub>2</sub>**

\* 東京ドームが4つ入る広さの杉の人工林が1年間に吸収する量に相当

今回、社有施設「ドミー南長崎アネックス」新築工事において、通常のコンクリートよりもセメントの使用量が少ない環境配慮型コンクリートを使用し、コンクリートの製造・運搬に関わるCO<sub>2</sub>排出量の削減によって、J-クレジットを取得しました。具体的には、地下構造に「ECM コンクリート<sup>®</sup>」、上部構造に「エコクリート<sup>®</sup>BLS」をそれぞれ適用しています。

同施設の新築工事では、コンクリートを構成する各材料の製造から現場打設に至るまでの各サプライヤーの取引情報(配合や運搬数量等)を本プラットフォームに取り込むことで、コンクリート製造・運搬のサプライチェーンにおけるCO<sub>2</sub>排出量を算定しました。また本プラットフォームには、J-クレジット取得に必要な「削減活動実績報告リスト」の自動作成機能があり、クレジットの取得手続きをスムーズに進められることが確認できました。

今後、本プラットフォームを通じた J-クレジットの取得を推進するとともに、環境配慮型コンクリートを適用した建築物のさらなる普及展開を図り、脱炭素社会への移行に積極的に貢献してまいります。

※J-クレジット制度：省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO<sub>2</sub>等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO<sub>2</sub>等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度



#### 【建物概要】

施設名 :ドーマー南長崎アネックス

場所 :東京都豊島区南長崎

設計者 :鹿島 建築設計本部

施工者 :鹿島 東京建築支店

延床面積 :4,177.73m<sup>2</sup>

構造/規模:RC 造/地上 5 階

竣工年月 :2022 年 2 月

(参考)

エネルギー消費とCO<sub>2</sub>排出を6割以上削減できるECMセメントを開発

(2014年8月5日プレスリリース)

<https://www.kajima.co.jp/news/press/201408/5c1-j.htm>

建物地上部に使える、鹿島の新しい環境配慮型コンクリート「エコクリート®BLS」を開発

(2016年6月8日プレスリリース)

<https://www.kajima.co.jp/news/press/201606/8a1-j.htm>

コンクリートの製造・運搬におけるCO<sub>2</sub>排出量を見える化するプラットフォームを構築

(2022年3月29日プレスリリース)

<https://www.kajima.co.jp/news/press/202203/29c1-j.htm>